科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	中国語IIA [文法・文化理解] C208 Intermediate Chinese A [Grammar, Cross-cultural understanding]			担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 小笠　智章		
群	外国語科目群	分野(分類)			使用言語	日本語	
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	木5	配当学年	２回生以上	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

中国の歴史や文化などについての文章を読み、
　　中国についての理解を深める
　　初級で学んだ文法事項に関する理解を深めて、確かな学力とする
ことを目的とする。勿論、中国の歴史・文化などのすべてが理解できるわけではない。興味をもった事柄に関する書物を読んだり、留学生に話を聞いたりして理解を深める、その糸口になれば幸いである。
　文章はやや堅めで読みやすく、初級で学習したことをより確かな知識・学力とするのに格好である。特に補語（様態補語や方向補語・結果補語など）や、中国語独特の表現法、慣用句などに数多く接することができる。

[到達目標]

「補語」（特に方向補語の派生義や結果補語、様態補語）に慣れること。多くの用例に接して、少なくとも辞書を片手にすれば中国語の文章を読み進められる程度の学力を身につける。
　また、語学には「音読」が不可欠である。あまり抵抗を感じずに「音読」できるように慣れて行きたい。

[授業計画と内容]

第一課から六課までを読む。文章のタイトルは
　　一　文字
　　二　書法
　　三　彫塑
　　四　絵画
　　五　工芸
　　六　城市
一つの課を２～３回の授業で読み進める予定。ただし、授業の進み方によって、多少の進度の違いが出ることもある。また、一つの課を読み終える毎に、学習者の復習のために簡単なレポートを課す。内容理解と文法知識の定着のためである。
　練習問題などが付けられていないので、こちらで簡単な問いを用意する。中国語で解答を作ってもらう。
授業は、初めに全員で音読し、次に担当者を決めて１、２文ずつ音読し、日本語に訳してもらった上で、鍵となる文法事項や表現法について説明してもらう。その補足は、初級のテキストをもとに、教官が解説する。

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

成績評価は学期末の試験を主とする。試験によって補語や慣用表現、複雑な構文などへの習熟度を見る。詳細は授業において説明する。

中国語IIA　[文法・文化理解] C208(2)へ続く↓↓↓

中国語IIA　[文法・文化理解] C208(2)

[教科書]

高橋海生 『中国文化史漫歩』（白帝社）ISBN:4-89174-127-9
始めに、中国語の構造や補語、介詞などに関するプリントを配る。学習に役立ててほしい。また、各課の内容の理解に役立つもので、教員が入手できるものがあれば、適宜配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
最も良い参考書は、受講生が初級で用いたテキストである。授業中、文法事項の確認をする時には、初級のテキストを用いる。各自、初級で使用したテキストを毎回持参すること。

[授業外学修（予習・復習）等]

音読と内容理解の予習をしっかりとして欲しい。復習のために、各課を終えた時にレポートとして、文法的に勉強になった一文、内容的におもしろかった（興味を感じた）一文を、その理由とともに挙げてもらい、かつ、全体について考えたことをまとめてもらう。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]